

倒れてしまった大杉ですが

昨日、大湫コミュニティで会議がありました。午後七時からの会議でしたが、明るいうちに行って、先日倒れた大杉を見て、心に焼き付けようと思いました。

社（やしろ）の前に差し掛かろうとしたとき、私の目に飛び込んできたのは衝撃的な光景でした。覚悟はしていたものの、あの大杉が頭を私の方に向け静かに横たわっています。その大きさに改めて圧倒されました。

立っていたときの大杉も大きかったのですが、横たわると大杉全体が迫ってきて、その大きさが私を圧倒します。変な例えですが、まるでガリバー旅行記の世界でした。

これが千年を超える時間の重みと迫力なんだ……私はしみじみと思いました。自然豊かな瑞浪市ですが、千年以上も生き続けているものは恐らく大杉だけでしょう。一口に千年と言っても、気の遠くなるような時間です。小さな苗からここまで大きさに成長するまでにかかった時間は、大杉の実物を見て初めて実感できるのです。

もう二度とそびえたっている大杉を見ることはできません。大杉の偉大さと失った悲しさを感じながら、私は会議に参加しました。その会議で、思いもよらなかった情報を得ることができました。そして、それによって、ほっと安心し、私は救われたような気持ちになりました。

その情報とは、大杉の苗木が植えられている場所があるということでした。倒れてしまった大杉が子孫を残していたのです。これは感動でした。そして、感謝でした。大杉は未来に向けて生き続けることがわかったのです。大湫の方たちは大杉を違う形で残してくださったのです。

苗木たちが大杉のようになることを、今生きている人はだれも見届けられませんが、でも、大杉の命のリレーが続いている……今はそれだけで十分のような気がします。

北中校区大湫地区にある大杉を見たことのないあなた、時間をみつけて足を運び、目に焼き付けてみてはどうですか。それも地域貢献の一つだと私は思いますよ。



（七月三十日 記）